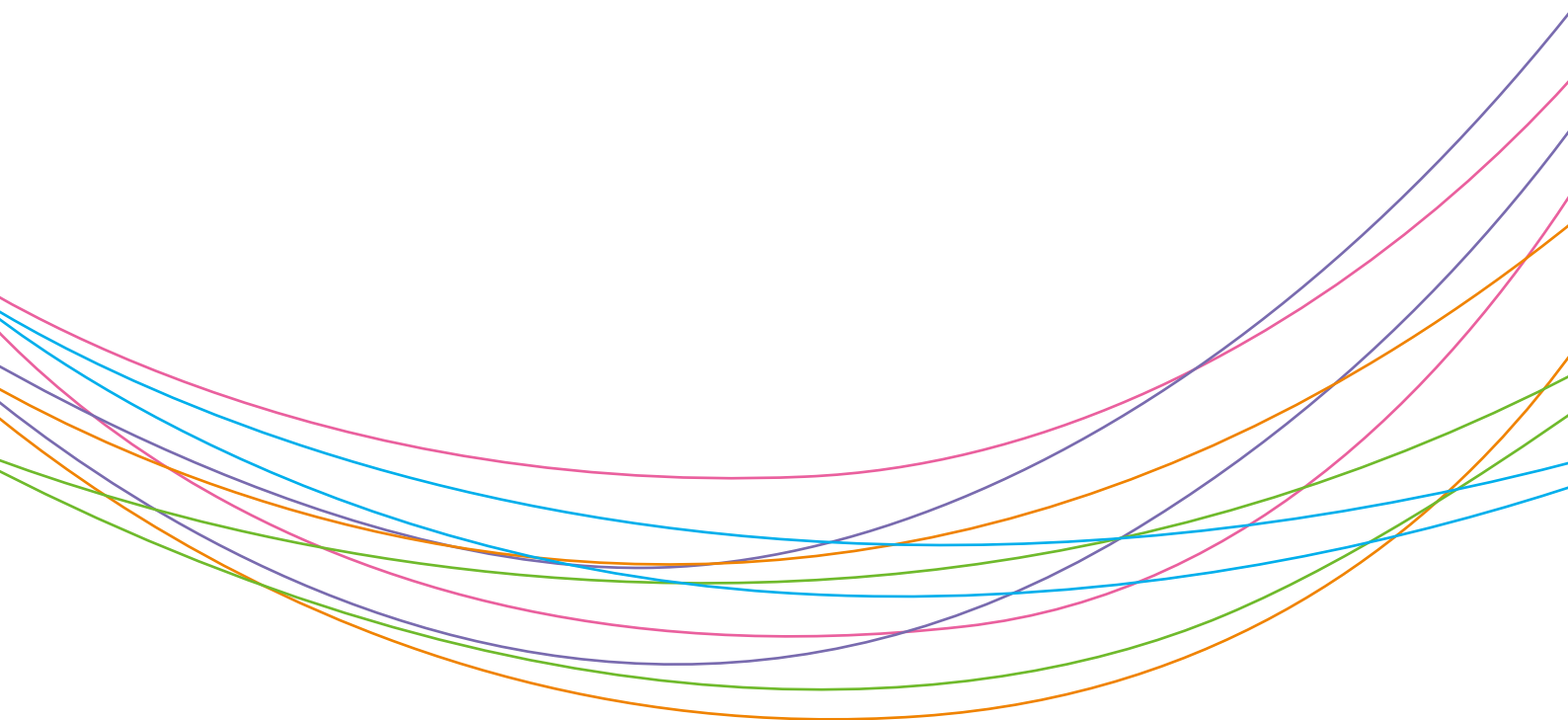


山形大学

2019年度 行動計画



Yamagata University
Annual Plan 2019

何を成すために

山形大学が存在するのか

3つの使命

社会における役割・存在意義

- 地域創生
- 次世代形成
- 多文化共生



山形大学は、「自然と人間の共生」をテーマとして、次の5つの基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、国際化に対応しながら、地域変革のエンジンとして、キラリと光る存在感のある大学を目指す。

5つの基本理念

組織

- 学生教育を中心とする大学創り
- 豊かな人間性と高い専門性の育成
- 「知」の創造
- 地域創生及び国際社会との連携
- 不断の自己改革

役割を果たすために

何を為すのか

Fundamental Principles



「山形大学で学んで本当に良かった。」 そう言ってもらえることが 私たちの願いです。

山形大学長

小山 清人

KOYAMA Kiyohito

2019年度の行動計画として「Annual Plan 2019」を策定しましたので、ここに公表いたします。

大学を取り巻く環境は、一層厳しさを増しています。その一因として、まず少子化が挙げられます。

18歳人口の減少に伴い、大学進学者数は減少が続くと予測されています。東北における18歳人口は最も減少率が高く、10年後には2割減少するといわれています。現在、本学の学部学生数は約7,500名。そのうちの7割は東北出身です。

さらに、国立大学は法人化後、教育や研究に安定的に使える予算である運営費交付金を毎年1%ずつ、総額で1,400億円余り削減されてきました。本学においても総額で約8億円が減少しています。

もう国立というだけで大学が存続できる時代ではないのです。質の高い経営が不可欠であり、そのためには、不断の自己改革が必要なのです。

私が学長になってから5年間、教育、研究、社会貢献、経営機能強化等、大学経営の全ての分野で「Annual Plan」は改革の柱としての役割を果たしてきました。

「教育」… 学士課程基盤教育プログラムの構築と実施体制を整備しました。

「研究」… 地域に根差し、世界をリードする研究拠点を整備するとともに、将来大きく発展する可能性を秘めた研究者・研究グループへの支援策の充実に取り組みました。

「社会貢献」… 産学官連携による研究成果の社会実装の推進、大学発ベンチャー設立支援に取り組みました。また、附属病院においては、地域に最高水準の医療を提供する取組を推進しました。

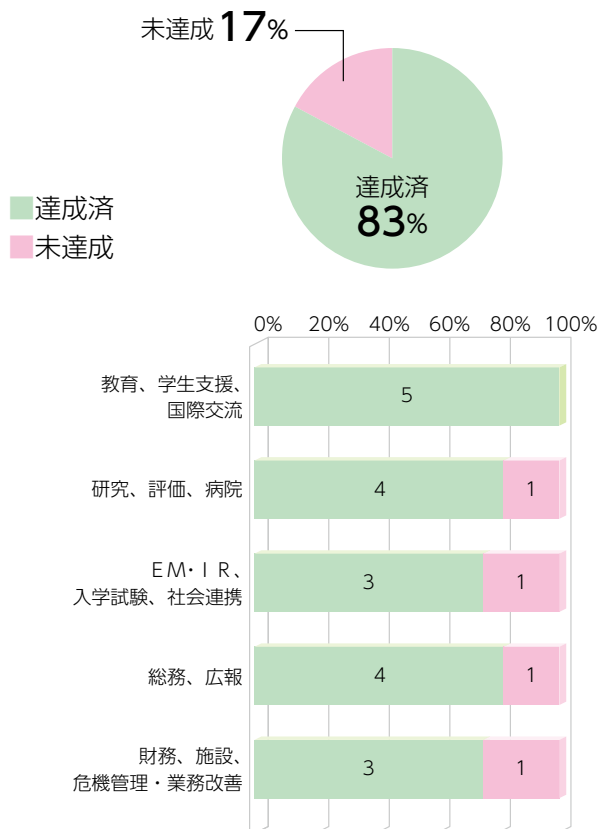
「経営機能強化」… ダイバーシティ環境を構築するとともに、収入源の多様化などにより自己収入の増加を推進しました。

今年はこれまでの成果を踏まえ、学長、理事、教職員が一丸となって、さらにチャレンジングなプランに取り組みます。山形大学が社会に必要とされ、学生から「山形大学で学んで本当に良かった。」そう言ってもらえることが、私たちの願いです。

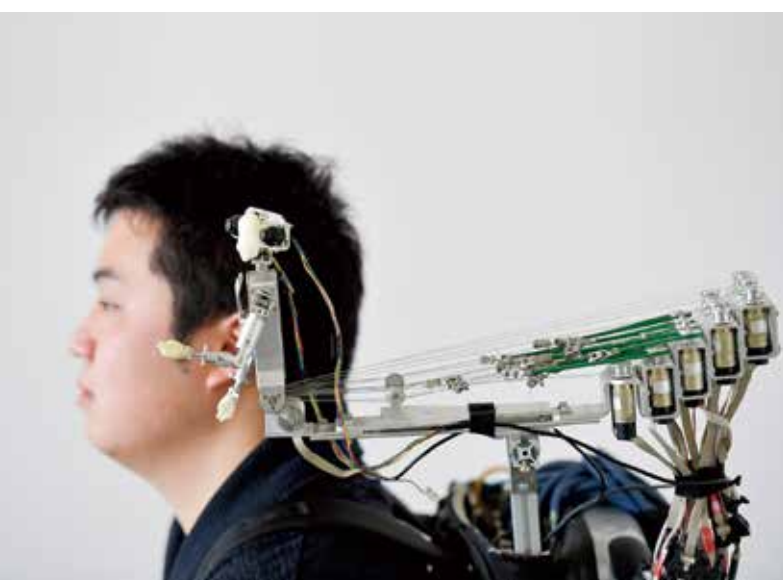
今後とも、本学活動へのご支援を宜しくお願いいたします。



Annual Plan 2018 の達成状況



Yamagata University Annual Plan 2019





教 育
学生支援
国際交流



担当理事・副学長

安 田 弘 法

6

研 究
評価
病 院



担当理事・副学長

久 保 田 功

7

EM・IR
入学試験
社会連携



担当理事・副学長

大 場 好 弘

8

総 務
広 報



担当理事・副学長

阿 部 宏 慈

9

財 務
施 設
危機管理・業務改善



担当理事・副学長

小 島 浩 孝

10

キャンパス・山形大学基金

11

山形大学Youtube公式チャンネルで
5人の担当理事のコメントがご覧いただけます。

山形大学
Youtube
公式チャンネルは
こちら→



教育 学生支援 国際交流

Yamagata
University
Annual Plan
2019



担当理事・副学長

安田 弘法

YASUDA Hironori

》》》 基本方針

教養教育と専門教育を連動させた「新基盤教育」を基に、学士課程教育の体系化と大学院課程教育の充実・強化を図り、知・徳・体の調和がとれ、地域を創生し、多文化共生社会でも活躍する次世代形成の志ある人材を育成します。また、学生のニーズを的確にとらえて、学生生活が充実するよう手厚い支援を実施します。

2019年度 行動計画

PLAN 1 学部学生が、自らの学びと振り返りの習慣を身に付けるため、学士課程基盤教育機構を中心に、3年次の新たな基盤力テストを実施します。そして、基盤力テストの課題の抽出とその対応を図り、基盤力テストの完成度を高め、自らの多面的な学びを充実させるとともに、振り返りの習慣を進化させます。

PLAN 2 大学院生が、豊かな人間力と高度な専門力を身に付けるため、大学院教育改革を行い、大学院基盤教育機構を中心に、3つの基盤教育科目の日本語と英語版のテキストを作成します。そして、基盤専門（共通）科目の更なる充実を図るとともに、設置を構想している新研究科新専攻の連携教育・研究が迅速に行えるよう準備をします。

PLAN 3 学生が心身の健康を保持し、充実した学生生活を過ごすため、就学に係るきめ細やかな指導を含めた手厚い支援を学生委員会等を通じて実施します。さらに、課外活動の充実を図るため、サークルのリーダー研修会を3キャンパスで実施するとともに、10件程度の支援を行います。

PLAN 4 学生・教職員・地域の国際化を図るため、「山形大学国際化のためのアクションプラン2018-2020」を7割以上達成します。

PLAN 5 学生が多文化共生の必要性とその理解を高めるため、3カ国に新たな海外同窓会を立ち上げ、受入留学生数を300名程度に、また、学生大使等の海外派遣留学生数を400名程度に増加させます。

>>> 基本方針

キラリと光る存在感のある大学を目指すため、研究と病院の特色を強化します。

2019年度 行動計画

PLAN 1 山形大学の3つの使命と5つの基本理念に従い、第4期中期目標期間を見据えた大学の将来目標とそのための戦略を提案します。

PLAN 2 各キャンパスの理事特別補佐（研究ディレクター、研究支援）等と連携し、大型（1千万円以上）の科学研究費等の競争的資金への応募数を前年度比15%増とします。

PLAN 3 ゲノム解析に基づくオーダーメイド医療を推進します。

PLAN 4 重粒子線治療開始に向けて、装置の各種性能確認を行うとともに施設の運用管理と診療体制の整備を進めます。

研究 評価 病院

Yamagata
University
Annual Plan
2019



担当理事・副学長

久保田 功

KUBOTA Isao

EM・IR 入学試験 社会連携

Yamagata
University
Annual Plan
2019



担当理事・副学長

大場 好弘

OHBA Yoshihiro

>>> 基本方針

戦略的な入試広報活動の展開、入学志願者の利便性の向上、本学の諸活動データの収集・分析による意思決定支援、民間企業との共同研究の拡大推進及び基金の拡充を図り、学生、教育、研究、社会貢献に取り組めます。

2019年度 行動計画

PLAN 1 本学の特色や入試方法等を理解いただくため、学生、保護者、高校教員ごとに説明会、相談会、講演等を実施するとともに、本学の魅力を体験できるよう、高校等から本学への訪問者数10,000名を目指します。また、多文化共生を推進するため、外国人留学生の志願者数150名を目指し、説明会等の実施に取り組んでいきます。

PLAN 2 入学志願者の利便性の向上を図るとともに、願書受付時の作業効率を向上させるため、インターネット出願システムを導入します。

PLAN 3 本学の諸活動のうち、教育、研究、社会貢献等に関し経営の効率性向上に資する BI Reports (Business Intelligence Reports: データを動的に可視化したレポート) を新たに3件以上作成します。また、教育コストの可視化に資する指標を3件程度開発するとともに、その過程で収集する情報を有効活用した労働生産性向上に寄与できる提案を1件以上行います。

PLAN 4 本学校友会と一体となって「山形大学基金」の拡充を図り、学生支援、教育研究支援、社会連携事業等の更なる充実に繋げるとともに、本学が持続的に発展するための基盤を構築します。
【募金活動計画額: 3,000万円】

PLAN 5 産学官連携推進本部とオープンイノベーション推進本部の更なる組織強化を図り、民間企業との共同研究受入額15億円を目指します。

総務 広報

>>> 基本方針

学長を中心として効率的な大学経営を更に推進します。また、多様な人材を育成するための人事制度及び教職員が能力を発揮できる職場環境を整備するとともに、ワーク・ライフ・バランスに配慮し、ダイバーシティ環境の構築を進めます。さらに、情報発信の多様化と国際化を推進します。

2019年度 行動計画

PLAN 1 コンプライアンスへの認識を高めるため、教育研修を年2回以上開催し、実態に即した事象別の教育研修の実施を促すとともに、潜在するリスク及びその対応を共有し、意識の向上に努めます。

PLAN 2 国内外におけるブランドイメージの向上を図るため、動画、紙媒体、Web媒体、SNSなど、ステークホルダーが情報に触れられる機会を最大限に増やします。学長定例記者会見を年20回以上、プレスリリースは年間200件以上配信し、メディア採択率60%を目指します。

PLAN 3 人事給与マネジメント改革に関するガイドラインに基づき、優秀な若手教員を確保するため、新たにテニュアトラック制度を構築し、常勤の若手教員割合約30%を目指します。

PLAN 4 働き方改革の一環として、柔軟な働き方を選択できるようにすることや労働生産性の向上を目的にテレワークを導入し、テレワークスペースの設置等インフラの整備や制度の構築を行います。

PLAN 5 女性研究者・若手研究者を中心とした、ダイバーシティネットワークの構築に取り組みます。また、第2次山形大学男女共同参画基本計画案を年度内に作成します。

Yamagata
University
Annual Plan
2019



担当理事・副学長

阿部 宏 慈

ABE Koji

財務 施設 危機管理・ 業務改善

Yamagata
University
Annual Plan
2019



担当理事・副学長

小島 浩 孝

KOJIMA Hirotaka

>>> 基本方針

教育・研究・診療及び社会貢献など、本学の役割を確実に果たしていくために、効率的、効果的及び健全な経営を目指すとともに、本学の理念に相応しいキャンパス環境の整備充実を計画的・重点的に推進します。また、業務の見直し及び改善を不断に推進します。

2019年度 行動計画

PLAN 1 2016年度から実施してきた「新たな収入増を考えるプロジェクトチーム」が提言した「山形大学自己収入増加に向けた提案書」の集大成として、収入額が2015年度実績と比較して4倍（1.3億円増）を上回ることを目指します。

PLAN 2 キャンパスにおける自立性を強化するため、教員人件費を各キャンパスに配分します。併せて、より一層の経営に資するため、授業料・入学料等の収入は各キャンパスの収入とします。

PLAN 3 学生・生徒等の「安全・安心」を確保するため、インフラ長寿命化計画（個別施設毎の計画）を2019年度中に策定し、2020年度以降の整備に活用します。

PLAN 4 各課各室で労働生産性向上を目的とした取組を実施し、情報を共有しながら、業務の見直し・改善を行うとともに、ペーパーレス化を推進・徹底するほか、定型業務の外注化等により、超過勤務手当の削減（過去3年平均10%減）等を図ります。また、昨年度導入した文書管理システムに旧システムから完全移行するとともに、電子決裁を導入します。



小白川 キャンパス (山形市)

飯田 キャンパス (山形市)



米沢 キャンパス (米沢市)



鶴岡 キャンパス (鶴岡市)



山形大学基金 Yamagata University Fund

次世代の可能性
—山形での学びにご支援を—

山形大学基金では、次に掲げのご支援をお願いしております。

- 山形大学運営全般へのご支援
- 大学公認学生サークルへのご支援
- 経済的修学困難学生へのご支援
- 学部等へのご支援

お問い合わせ

山形大学基金担当 TEL023-628-4497
E-mail : yukikin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
山形大学基金ホームページ www.yamagata-u.ac.jp/jp/fund/





Yamagata University Annual Plan 2019

アニュアルプランは毎年度達成状況を検証します。
ご意見・ご要望は、下記までお願いします。

【編集発行】山形大学役員会

【お問い合わせ先】山形大学企画部企画課

〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12

Tel : 023-628-4190 Fax : 023-628-4849

e-mail : kikadai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

【ホームページ】<http://www.yamagata-u.ac.jp>